

クロリーヌとふしそなこたつ 戸森しるこ

クロリーヌは黒ねこです。クロリーヌの家には、こたつがあります。

赤いふとんのかかつた、小さな丸いテーブルの下に、電気がついていて、ふとんの中に足を入れると、とつてもあたたかいのです。

冬になると、こたつの中でおひるねをするのが、クロリーヌのおたのしみです。

今日もクロリーヌは、こたつであたたまつて、飼い主のユキさんの横から、こたつの中にもぐりこみました。

「あれれ？」

のぞいてびっくり、いつもはまづくらなこたつの中に、小さなまちがあるではありませんか。こたつのテーブルのかわりに、青い空も見えます。

「わあ、す、い」

ユキさんの足のむこうは、ずっと広くなつていて、小さな家や、小さなお店が、たくさんならんでいました。たてものはすべて、こたつのふとんと同じ赤色です。

「小さくて、かわいいなあ。もつと近くで見たいにやん」

クロリーヌは身をのりだしました。

よく見ると、人もいます。お店で買い物をしている人や、家庭で水をまいている人、学校の校庭で走っている、

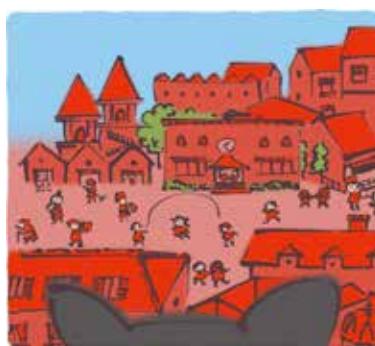
子どもたちもいます。そしてみんな、赤い服を着ています。

小さな赤い人たちは、みんなで歌っています。

した。

ひと一つ ふた一つ
こたつまち
こたつへおいで
あたたかくつて
ねむくなる

ひと一つ ふた一つ
こたつまち
こたつへおいで
あたたかくつて
ねむくなる



「むにやむにや、たしかにねむくなるにやん」
クロリーヌは、なにかにさそわれるよう、小さなこたつのまちの中へ、進んでいこうとしました。

「ストップ、ストップ」

「黒ねこさん、大きすぎるわよ」
「小さくなれば、こたつまちでくらせるよ」

クロリーヌは、もうねむたくつて、歩くことができま

せん。

「もう、こでねちやおう」

目がさめると、見たことのない場所にいました。あたりを見ると、大きな赤い家や、赤いお店がならんでいます。

でも、人はだれもいません。どこからともなく、歌が聞こえできます。

ひと一つ ふた一つ

ここは たのしい

こたつまち

ねむつておきたら

こたつねこ

「ねむつておきたら、こたつねこ？」あつ

よく見たら、クロリーヌは赤いねこになつていました。
わたし、あの小さな赤いまちの大きさに、ちぢんじやつたんだ！ こたつねこになつちゃつたんだ！ どうしよう」

クロリーヌは、こわくなつて、しくしくなきはじめました。
そのとき、クロリーヌのはなが、ひくひく動きました。



「あれつ、いいにおいがする。クリームシチューだ！」

ところりクリームと、ごろつとしたお肉が、たまりま

せん。

「いってみよう！」

クロリーヌは、赤いまちの中を、クリームシチューのほうへ走ります。

ところが、どんなに走つても、前に進まないようなんかんじです。からだがうまく動きません。

「えいっ、えいっ、おかしいにやん」

クロリーヌは前足のつめを出して、思いつきり、前に

ジャンプしました。

すると、きゅうにかおが、ひやつと、すずしくなりました。

「クロリーヌ、おひるねはおしまい？」

ユキさんが、よる「はんのしたくをしていました。

「あらまあ！ クロリーヌつたら、また、こたつのふとんをひつかいたわね」

見ると、こたつのふとんには、たしかにひつかいたあとがありました。

「ごめんにやー」

クロリーヌの頭の中は、クリームシチューでいっぱいです。こたつまちのことも、自分が赤いねこになつていたことも、もうすっかりわすれています。（おしまい）